

平成 28 年 9 月 22 日

南の風 200

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

お陰様で、南の風も200号となりました。読者の皆様には、常日頃より『南の風』にご理解を賜り、また貴重なご意見をお寄せいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

今後ともお気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願い致します。

さて、先日ミニバスと中学校の指導者の方から、次のような質問を受けました。

「スクリーンに対するディフェンスは教えるのが難しい。スクリーンのはずし方や効果的な指導はどうしたらよいのですか。」といったことでした。

現在、ミニバス及び中学校のゲームでは、『マンツーマンディフェンスの推奨』により、スクリーンを利用したプレイが、以前より頻繁に行われるようになりました。当然スクリーンに対応するディフェンスもそれぞれのチームで取り組まれています。今回の南部ミニ連の秋季大会でも、多くのゲームでスクリーンプレイ及びスクリーンに対するディフェンスが見られました。

ここで、これまでのスクリーンのディフェンススキルについて紹介します。

◇ファイトオーバーザスクリーン（ファイトオーバーザトップ）

◇スライド ◇スイッチ（スイッチアップ） ◇ショウムーブ及びショウアップ

このようなスクリーンのディフェンス形態は、今も各カテゴリーで指導されています。

一方、U-18エンデバーを中心に、スクリーンプレイ及びスクリーンのディフェンススキルについて、新しい考え方（今までのスキルを整理してまとめ推進する）が示されました。

この南の風でも過去に取り上げたことがありました。今回は詳しく紹介してみます。

まず、名称です。（すべてオンボールスクリーンのディフェンスです）

☆ショウハード（ショーハードトラップ）

☆ショウフラット

☆オーバーアンダー（オーバーアンダートラップ）

※スイッチ

一つずつ解説します。始めにショーハードです。スクリーナーがユーザーのディフェンスにピックに行きます。この時スクリーナーのディフェンスは、早めに「ピック！ピック！」と叫び、ユーザーのディフェンスに伝えます。伝えながらスクリーナーの身体に触れ（押したり、ブロックしたりするとファウルになるので注意）、身体半分ユーザーに向けます。ユーザーのディフェンスは、「ピック！」の声を聞いた瞬間、ユーザーに逆側にドリブルされないように開きます。（スクリーナーとユーザーのディフェンスが『ハ』の字になる）次に、ユーザーがスクリーナーを利用してドリブルした時に、スクリーナーのディフェンスは『ショウ』してユーザーのドリブルにぴったり付きます。ユーザーが2ドリブルした時に、ユーザーのディフェンスとチェンジして元のスクリーナーに付きます。（完全にスイッチはしないのです）

留意点です。スクリーナーのディフェンスが『ショウ』して付く時に、タイトにディフェンスすること、素早くスクリーナーにもどってディナイしながら付くことがポイントです。ユーザーのディフェンスは、スクリーナーをかわしながら遅れないようにして、ユーザーに付きます。 次号に続きます。